

◇ 友 寄 景 善 議員

○ 4 番（友寄景善） 村長にお伺いします。

村民が待ち望んでいた大宜味村での新型コロナウイルスワクチンの集団接種が、65歳以上の高齢者を対象に去る5月20日からやっと開始され、ほっと一息ついたところですが、しかし、5月15日発行の沖縄タイムス及び琉球新報の新聞報道によると、村長自身への接種は村内の集団接種日より18日も早い5月2日に個別接種を済ませたとの報道がありました。

集団接種を待つことなく、なぜ個別接種をしたのか。その根拠、理由及び手続方法等経緯をお伺いします。

○ 村長（宮城功光） お答えいたします。

接種した根拠、理由及び経緯につきましては、4月の末、県町村会の担当職員と調整があり、5月18日から20日まで東京でのダム関係協議会の理事会及び総会に出席するため、PCR検査が必要であるということで、村立診療所に相談の際にワクチン接種についても相談したところ、医師会から5月2日の接種が可能とのことと第1回目の接種を受けました。2回目を5月24日に受けました。

○ 4 番（友寄景善） 私はですね、今のこのコロナ禍の状況において、村長の答弁を聞いて、私は自己中心、自己優先の接種じゃないかというふ

うに大変失望しております。大宜味村のトップとして、これからの大宜味村の行政運営について、懸念、危惧を抱いているところです。今後の村政運営について、このままで本当に大丈夫なのかと、そういう気持ちを持ちました。村民の命、健康を守るのが村長の大きな仕事のひとつだと思います。村民を優先して接種させ、村長は後回しでもいいからと、そういう気持ちにはなれなかったですか、お伺いします。

○ 村長（宮城功光） お答え申し上げます。

私は、5月、6月と全国大会が頻繁にある関係で、何とかできたらという思いでただ軽く相談したところ、医師会のほうでできますよというふうなことであったわけです。もし、私が東京へ行って感染でもしてくると業務が停滞する。2週間ぐらいの業務停止になる可能性もあるわけですね。その辺も接種した後から、やはり村民の中には今接種をしないという声も多々聞こえます。その辺はなぜかといいますと、やはり副反応があるとかというふうな声もよく聞かれております。その経緯を村長自ら知るということも大変重要なことではないかな。接種を受けてどうであったか、副反応があったのかなかったのかということをしかりと、私は村民に伝えて、接種を考えていない人にもぜひ接種をしていただきたいという思いで、接種をした後にそういう判断をしたところであります。

○ 4番（友寄景善） 天皇陛下の所属する皇室、皇室は6月1日から接種を開始したと、今月1日からですね。個別については個人情報ですから公表はできないけれども6月1日から始まったと。東京都の小池知事、東京オリンピックを間近に控えて、大変忙しい立場であります。小池東京都知事も65歳以上の高齢者ということで居住地で接種しています。個別接種ではないです。6月5日に接種しているんです。大宜味村長に遅れること一月以上たって接種しているわけです。やはりそこは、東京都知事だからということで、特別に接種するわけではありません。そこはやはり小池知事が日頃から言っておられる都民ファーストの心があって初めて6月5日の接種になっただろうと思います。村長もこういうところはぜひ見習ってほしいというふうに思いました。

今、私、新聞を沖縄タイムスと琉球新報、5月15日発行を持っております。もう御存じだと思いますが、県内の7首長の優先接種という見出しということで、7首長のワクチン接種のことが書かれておりました。他の首長の接種については、私は理解できます。ところが大宜味村長の個別接種について、これを読んで私は本当に愕然としました。あってはならないルールを破って、強引に手続を進めたのではないかという懸念が生じてまいりました。この新聞報道をちょっと読み上げますと、村長は東京出張と

村の65歳以上の集団接種日（5月20日）が重なったため、村立診療所と北部地区医師会に相談。ワクチンに在庫があったため2日に接種したという。集団接種日は29日と6月24日にもあるが、宮城村長は県外出張も多く一日でも早く接種したかった。率先して受けることで接種を不安に思う村民に安心して接種できると呼びかけると述べたと掲載しております。先ほど東京出張というふうにありましたけれども、必ず20日でなくてもいいわけなんです。2回、3回とあるから。その20日の東京出張を理由にして早めに接種したというのも私はどうかなというふうに思うわけです。今、コロナ感染者が蔓延している状況で、人流の抑制を抑えるのが行政の大きな努めです。不要不急の外出も自粛要請されておりますし、県をまたぐ移動も自粛される。国民は、この大きく変わった日常生活にストレスを感じて大変な生活をしているわけです。やりたいこともできない。仕事も失い、会社も倒産すると、そういう厳しい状況であって国民は苦しい生活を余儀なくされています。東京に住んでいる家族が沖縄県にいる親の死に目にも会えない、葬儀にも参列できない。今でも線香できない。こういう状況、県外をまたぐ移動もできないような状況で出張が多いということは、本当に状況を的確に把握していないのではないかというふうに思っております。村長、先ほど答弁がありましたが、県外出張も多いからワクチン

をするとか、そういう答弁でありましたが、一般村民、国民からすると、これは首長の勝手なわがままな行動ではないかというふうに思わざるを得ないわけです。

それでは次にお伺いしますが、村長は既に2回のワクチン接種を終えたようですが、今後、県外出張についてもう心配はないんですか、どういうふうな認識を持っておりますか。お伺いします。

○ 村長（宮城功光） さっきも答弁しましたように、恐らく医師会から発表されたワクチン接種1回で94%の確率、2回で100%の防止をする確率があるというふうな報告をされました。そういう意味では、やはり私は県の役員もしている関係で行かざるを得ない。最近、自粛の話が出ておりました緊急事態宣言になって書面決議というふうな感じで取りやめになったりしておりますけれども、今後もやっぱり、そういう6月、7月と……、もう6月はないんですけれども、7月ごろに要請行動があるというふうに聞いております。そういう面ではやっぱりワクチン接種をしているおかげである程度安心感が持てるかなというふうな思いで、できるだけ要請行動はやっていきたいなというふうに考えております。

○ 4番（友寄景善） ワクチンを接種したからといってですね、自分は安全だからというふうな思いもあるでしょうが、今の国の状況を見て、ど

うしても出張に行かないといけないというふうなことがあるかもしれませんが、そこは極力控えて、必ずしも村長が参加できなくてもいいような会合があるかもしれません。そこは一般村民、国民と同じ目線です、村長だから特別東京出張あるいは県外出張が許されるというわけではないはずですので、そこはちゃんとわきまえて自重もしていただきたいと思っています。ワクチン接種の呼びかけなんです、不安に思う村民に安心して接種できると呼びかけるというふうなことがありました。村長が率先してワクチン接種する理由を述べておりましたが、ワクチンが世界で開発された当初はワクチンに対する不安、効果がはっきりしない全世界の人は非常に不安に思っているわけですよ。ですから一国の大統領、首相は率先してワクチンを打って安全ですよというふうなことをPRできるわけなんです。ところがそれから何か月たっていますか。全国民、世界の人にはワクチンは安全だと、効果もはっきりしてきている。そういう認識をしている状況で、いまさら大宜味村長がワクチンを打って安心を呼びかけるということは、これは村長の個別接種を正当化する後付けの理由ではないかと、そういうふうに思わざるを得ないわけです。そこで伺いますが、村長の個別接種について、これは役場職員、担当課の方は事前に知っていましたか。村役場内部で調整して個別接種を行ったのか、そこら辺をお伺いします。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

村長の優先接種に関しては、役場内部との調整でやったということではなくて、村長自らの調整で行ったと聞いております。

○ 4番（友寄景善） ちょっと聞き取りづらくて理解できなかったんですが、担当課と、あるいは担当者で十分な調整を行わないで、村長独自にワクチン接種に手続、段取りしたということで理解していいですか、村長。

○ 村長（宮城功光） この医師会での接種については、多分、3日か4日前ぐらいに、接種をする3日前ぐらいに連絡があって、ちょうどそのときに村の接種表が配布されました。それで私の場合は、今回医師会からの連絡で2日に接種ができるということですということで、担当職員には話をしております。

○ 4番（友寄景善） やはりワクチン接種については、よく言われているんですが、ルール、マニュアルをしっかり定めて、優先順位もあるわけですから。それを内部だけで決めるんじゃなくて、やはりそこは村長が個別接種するのであれば、村民に広く知らせて、村民の理解を得て、村長の個別接種は進めるべきであって、今回の接種の方法は、本当にあまり人に知られていない、こっそり接種したというふうに言われかねない、そういう状況です。広く村民に安全を呼びかけるのであれば、役場全体で広く議

論して村民に広く広報でも使って、村長が率先してやりますと。それぐらい言わないと広く村民に周知することにはならないというふうに私は思います。

このワクチンなのですが、今、医師会でやったのは、村に配分されたワクチンではなくて、どういったもののワクチンなんですか。そこら辺をお伺いします。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

優先接種のワクチンについては、県が管理しております医療従事者用のワクチンになりますので、村のワクチンとは別で県が持っているワクチンを使っております。

○ 4番（友寄景善） 村に配分されたワクチンじゃなくて、医療従事者ということらしいんですが、これも大きな疑問がありますね。村長は医療従事者に該当するのか。厚生労働省が示したワクチン接種優先順位からすると、村長は医療従事者には該当しないはずですが、これも大きな疑問に思うわけです。

それでは、ちょっとまた別の点をお伺いしますが、今この役場から新型コロナウイルスワクチン予防接種通知書在中というのが、私も65歳以上ですから届いています。役場職員はほとんど行っていないと思いますが、

65 歳以上になりますので届いていますが、ちょっと私いつ届いたのか記憶が曖昧で確認したいんですが、役場はいつ、どのような方法で村民に送付したのかお伺いします。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

65 歳以上の高齢者向けの接種券については、4 月 26 日月曜日に、こちらから郵便局の配送をお願いしております。件数が多いものですから、順次、週末ぐらいまでには届くような形で行ったのではないかと聞いております。

○ 4 番（友寄景善） 4 月 26 日に郵送したということで、週末、要するにゴールデンウィークの始めぐらいには届くだろうというふうな話でしたが、これは村長にも同じようにして送付されたわけですか。村長は個人的に手渡し、手交したわけですか。村長も一般村民と同じような形で郵送されたわけですか、お伺いします。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

村長と副村長については、庁舎内ということもあったので発送日に直接手渡しでお渡ししております。

○ 4 番（友寄景善） じゃあ、26 日に村長と副村長はこの通知書を手に取ったということですね。多分、そうすると私もゴールデンウィークの始

め頃に受け取ったと思いますが、問題は、これ村からの通知書、いろいろ5枚入っているんです。注意書き等、接種券とか予診票とか。その中に1つのチラシには、1、接種対象者、2、接種方法、3、予約方法とかいろいろ細かいことが書いてあるんです。接種方法のところに集団接種（個別接種については現段階では未定です）。というふうに明記されているわけなんです。この個別接種というのは役場はないと言っているのに、なぜ村長は個別接種をしているんですか。これも明らかにルール破り、村長が率先してこのルールを破っているようなものではないですか。それともう1点、同封されている資料には、新型コロナワクチンは医療従事者、高齢者、基礎疾患のある方等から順次接種を開始する予定です。御自身の接種の順番を御確認いただき、順番が来るまでお待ちくださいと明記されているわけです。これは村、村長が決定して住民に送っていることなんですよ。これを自ら村長が無視して、強引に手続を進めたという結果になっているわけです。これは大きな問題だと思います。それにこの封筒にも、予定開始日令和3年5月10日、赤文字で目立つように書いているんです。予約開始の5月10日にならないとできないはずなんですよ。村民は5月10日が来るのを首を長くして待っているわけなんです。それを村長はフライングをして既に接種をしていると。こんな行政の進め方があっていいんです

か。村民から信頼されないですよ。こういうやり方ですので、今後の行政運営にも非常に支障が出て、本当に村民の信頼は損なわれるのではないかというふうに思います。今回の通知書に示された内容、それにそぐわないような形で村長は接種されておりますが、村長のこの件に関してどうですか、お伺いします。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

ちょっと議員のほうで誤解を招いているんじゃないかなと思うところがありますので、ちょっとそこを説明したいと思います。友寄議員がおっしゃっている個別接種というのは、恐らく優先接種のことを指していると思います。こちらが送っている集団接種だとか個別接種というのは、集団接種は今行っている改善センターでの接種で、個別接種は診療所での個別接種を差しています。村長が行ったのは医療従事者向けのほうの優先接種のことを言っておりますので、このチラシに書いている個別接種とは別のものになるということです。

○ 4番（友寄景善） あのですね、先ほどから優先接種、これは命を預かる医療従事者というのは理解できますよ。厚生労働省が示した優先接種は理解はできますが、今回は村長だから特別に個別接種とかというのは、ちょっと行き過ぎじゃないかと。自己優先じゃないかと、村長の都合で早

めに接種したと。そういうことでは村民の理解は得られない。もし村長が個別、優先接種するのであれば、事前に村民に、村長はこういう事情があってこういう立場だからと、ちゃんと手続を踏んでワクチンの接種を進めるべきなんです。今、国民はワクチン接種の予約をするために大変な思いをしております。混乱して、行政も大変な対応に迫られている。そういう状況でありますから、これからもワクチン接種は続くと思いますので、そこはちゃんと村民が理解できるように、公表して、疑惑、疑念が持たれないように、ちゃんとしっかりしてワクチン接種を進めるべきであります。

村民の命と健康を守るのが村長の最も重要な仕事の一つであります。多くの村民が一日も早いワクチン接種を切望しています。全国的に見ても予約を取るために必死になり大きな混乱が生じているのが実情です。適切な対応が行政には求められているはずですが、ワクチン接種に関して、村は事前にしっかりしたマニュアルやルールを策定し、公正に接種が進められるよう村民に公表し、村民の理解を得て進めるべきだと思います。村民の命、健康は平等、公平に対処しなければならないはずですが、村長だからといって独断で判断して個別接種すべきではないし、特別扱いする正当な理由はないと思います。今回の村長自身への個別接種に関しては、村民の命、健康よりも村長自身の都合を優先させたとしか思えません。村民個別に送付

されたワクチン接種通知書の注意事項をないがしろにし、正当な手続を経
ず村民が知らぬ間に接種したとのそしりを免れないのではないか。村長の
猛省を促して私の質問を終わります。